

広報大洲 きらめき創造 大洲市  
—みとめあい ささえあう 肱川流域都市—

2016  
No.142

11

# 大洲



青空・白壁・赤いパラソル  
～なんよ手しごととマルシェ～

# がんばる大洲っ子

今月の題字作成者

大洲北中学校 1年 (現：大洲北中学校 2年)

廣 澤 杏 莉 さん



私の母は、毎日の生活のなかで、いろんなことを教えてくれます。いつも明るくて疲れていても顔に出さない、私はそんな母が大好きで尊敬しています。また、幼稚園のころから祖母に習字を習っています。とても分かりやすく教えてくれるので、これからも続けていきたいと思っています。

中学校の私のクラスは、みんな明るくて仲良しです。そして、面白い先生ばかりで、毎日の授業がとても楽しいです。

8月の終わりから3泊4日で関西方面へ修学旅行に行きました。友達と初めてユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行き、いろんなアトラクションを体験して楽しい思い出ができました。

気がつけば、中学校生活も半分終わりました。今は、部活動のバレーボールを頑張っています。そして、残りの中学校生活を充実したものにしたいです。

## 11月の納税など 納期限は11月30日(木)です。

税 別	11月	12月	1月	2月
市 県 民 税		4期		5期
固 定 資 産 税	4期		5期	
軽 自 動 車 税				
国 民 健 康 保 険 税	5期	6期	7期	8期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

## 現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	44,953人 (- 31)	件数 122件(131件)
男	21,470人 (- 7)	死者 2人( 2人)
女	23,483人 (- 24)	負傷者 156人(175人)
世帯数	20,173世帯( 5)	

(2016年9月末現在)

## CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	(特集)異文化に触れて大きく成長
8ページ～	おおずニュース
12ページ～	シリーズ
14ページ～	おしらせ
25ページ～	図書館・保健センター・ 心と体の健康ガイド
28ページ	がんばるひと (大洲カヌー同好会)

## 今月の表紙



手仕事文化が根付く南予地域の特性を生かして開催された「なんよ手しごとマルシェ」。

多くのブースでカラフルに彩られたおはなはん通り周辺では、浴衣での参加者や人力車の臨時運行などでにぎわい、盛況となりました。

詳細は9ページのおおずニュースで紹介しています。

# (特集)異文化に触れて大きく成長

～大洲市中学生海外派遣事業～



写真上段左から 原田さん 松井先生 野田尾さん 坂本さん 弓達さん 篠原先生  
中段左から 久保さん 山本さん 都築さん 近藤さん  
下段左から 萬奥さん 永原さん 菊地さん 東野さん



大洲市では、市内の中学生を対象に、「大洲市中学生海外派遣事業」を毎年実施しています。

この事業は、これからの大洲市を担う中学生を海外に派遣し、異国の文化に触れることで、歴史、経済、生活習慣および国民性の違いを肌で感じ、国際的な感覚と視野を養い、国際化時代にふさわしい人材を育成することを目的としています。今年度は市内7校、12人の中学生が8月3日(水)から17日(水)までの15日間、オーストラリアのケアンズに滞在しました。

現地では、ホストファミリーの家庭でホームステイをしながら語学学校に通い英語の授業を受け、自然や多くの人と触れ合い、さまざまな交流を行いました。

今月号では、参加したみなさんの感想と写真を紹介します。

僕は、今回の海外派遣事業でオーストラリアに行き、学んだことがいくつかあります。その中で一番心に残ったのは、オーストラリアの人たちが日本から来て不安でいっぱいの人に、親切に、そしてフレンドリーに接してくれたことです。僕は、それが本当にうれしかったので、大洲に帰ったらそのことを伝えたいと思いました。



大洲南中学校  
菊地 紫苑さん

僕は、親切で、慎重で、そして真面目なところが日本人の良さだと思います。しかし、フレンドリーなところも必要だと思います。だから、僕はこれからの学校生活や校外生活で友達だけでなく、困っている人、例えばお年寄りなどに親切に、そして話やすく接していきたいと思います。

今回の海外派遣で、たくさんのことを学べてよかったです。このことを、僕の将来に向けての大きな一歩としたいと思います。

僕は、今回の海外派遣事業に参加するにあたり、決めていた目標がありました。それは、「日本とオーストラリアの文化の違いを学ぶ」ということです。一番興味深かったのは、コミュニケーションの取り方です。



大洲南中学校  
東野 生吹さん

ある日、ホストファミリーの友達に会う機会がありました。その人は、僕にハグをしてくれました。僕は受け入れてもらえたと思うと同時に、困惑しました。なぜなら日本では、初対面の人とハグはしないからです。文化の違いを学ぼうとしても、なかなか馴染めませんでした。それでも少しずつオーストラリア流のコミュニケーションにも慣れ、会話もできるようになりました。人との関わりが研修を有意義なものにしてくれました。オーストラリアの文化を学ぶとともに、日本の文化の良さに気付くこともできました。

これからは、この経験を生かし、勉強に励んで大洲市に貢献できる人間を目指したいです。

オーストラリアで僕は、<sup>キキ</sup>kikiと呼ばれていました。積極的に話しかけてくれる人が多く、楽しく過ごせました。



大洲北中学校  
近藤 春季さん

僕は小学5年生のときからこの事業に興味があり、全身でオーストラリアを感じたいと考えていました。思えば、魚好きだった小学1年生の僕がグレートバリアリーフを知ったときから、本能的に行きたいと思っていたのかもしれません。

僕にとって夢の国だったオーストラリア。思い描いた雄大な自然の全てを目の当たりにはできなかったけれど、断片的に触れることができました。うっそうと広がるマングローブの森。全長5mを越す人食いワニ。

英語も十分に伝わり、生活、言葉、文化など多くのことを学べました。またいつか小学生のころの夢をかなえるため、自分でお金を貯めて行きたいです。お世話になったホストファミリー、スクールバディへもう一度「ありがとう」を伝えたいです。

オーストラリアでの2週間は、多くのことを学び、とても充実したものとなりました。日本とは違った文化を肌で感じ、将来の夢が明確になりました。



大洲北中学校  
永原 恵人さん

僕が海外派遣で驚いたことは、小学生とすれ違うたびにハイタッチを求められたことです。とてもフレンドリーで日本では考えられないことでした。休み時間には毎日レースに誘われて、足がくたくたになりました。また、日本の良さをあらためて感じることもできました。オーストラリアは信号無視が多く、とても危なかったし、時間にルーズで学校に遅れてしまいました。日本に帰ってきて、やっぱり日本はいい国だと感じました。

英語は自信のある教科でした。でも現地で使ってみて、まだまだ勉強が足りないと感じました。これから、入試だけでなく、実際に使う英語にも力を入れていきたいです。今回の海外派遣をサポートしていただいたみなさんに感謝し、この経験を生かしていきたいと思います。



大洲北中学校  
の だ お ほ の か  
野田尾萌花さん

今回の海外派遣事業を通して自分の将来の視野が広がりました。オーストラリアで働く日本人がたくさんいて、英語と日本語を切り替えて話しているところを見て、とてもかっこいいと思いました。将来は自分もあんな風に英語を話したいのですが、

ホームステイや現地のバディとの会話で自分のリスニング能力のなさを痛感しました。

また、ホストファミリーとカヤックをした休日や、現地の小学生とお互いに好きなことや家族、文化について話したことは、楽しくて印象深い思い出です。言葉はうまく話せませんが自分の知識を精一杯活用して、相手とコミュニケーションをとり、それが伝わった時はとてもうれしかったです。オーストラリアの生活習慣や遊び、食べ物にじかに触れ感じることができ、オーストラリアは良い国だと思いました。同時に、日本の文化の良さや物のありがたさを感じました。もっと勉強して将来は外国で役に立てるようにがんばりたいです。



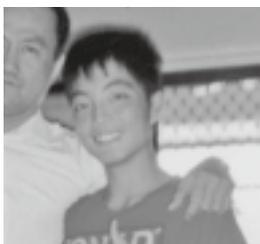
大洲北中学校  
か ず ま  
山本 一磨さん

期待と不安で出発した海外派遣事業でしたが、2週間はあるという間でした。その短い間でも、さまざまなことを学ぶことができました。その一つが人とのコミュニケーションです。

自分の思いを伝えることが難しいとき、ジェスチャーや表情で表現しなくてはなりません。相手に思いが伝わったときは、お互い笑顔になり喜びを分かち合えました。そして、笑顔は国境を越えて通じることを感じました。

二つ目は感謝の心です。僕が海外派遣中一番多く使った言葉は「Thank you」でした。言いやすい単語ですが、自分の思いを伝えるのに大切な言葉でした。これからは、今までよりもっと「ありがとう」の言葉を大切にしたいと思います。

今回の事業に参加して、自分の英語力の未熟さを痛感しました。これを機に、話す英語の力を付けたいと思いました。とても貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



平野中学校  
ま ね お く けん た  
萬奥 健太さん

僕は、「自分の英語がどこまで通じるのか試してみたい」という気持ちが強く、オーストラリアに行くことを楽しみにしていました。しかし、実際にオーストラリアに行くと、相手の言っていることが全く分からず、伝えたいことを英語で話すことができなくて不安になりました。しかし、ホストファミリーは僕を笑顔で迎えてくれました。意味が分からなくて困っていると、ジェスチャーを交えてゆっくり丁寧に話してくれました。そのうちに僕は会話をすることが楽しくなってきました。

今回の研修の一番の思い出は、現地の生徒との交流です。一緒に授業を受け、体を動かすうちに絆を深めることができました。コミュニケーションがとれないことに苦痛を感じましたが、伝えたいという思いがあれば気持ちがつながるという経験もできました。今回オーストラリアに行かせていただいたことに感謝し、これから自分に足りないものを身に付けていきたいです。

今回の研修の一番の思い出は、現地の生徒との交流です。一緒に授業を受け、体を動かすうちに絆を深めることができました。コミュニケーションがとれないことに苦痛を感じましたが、伝えたいという思いがあれば気持ちがつながるという経験もできました。今回オーストラリアに行かせていただいたことに感謝し、これから自分に足りないものを身に付けていきたいです。



大洲北中学校  
ゆ だ て な な こ  
弓達菜々子さん

私は、中学1年生のときから大洲市の海外派遣事業に参加することが夢でした。この夢が実現できたこと、このような機会を与えてくださったことに感謝します。本当にありがとうございました。

オーストラリアでの2週間は、人のあたたかさや気持ちを伝える大切さなど、日本にいただけでは感じることができないことをたくさん学べた、充実した毎日でした。ホームステイでは、ホストファミリーの中にとけこめるか不安でしたが、本当の家族のように私を受け入れてくれました。ほんの10日間くらいでしたが、ファミリーの優しさに触れ、別れの時は思わず涙してしまいました。でも、また会いに行くと約束しました。その時には、15歳の私にはできなかった話もしたいです。

今回の海外派遣事業を通して、たくさんの人との出会いがありました。この出会いを大切にします。ホストファミリー、バディ、11人の仲間たち、先生、ありがとうございました。

「楽しかった」これが僕の今回の海外派遣の率直な感想です。もちろん、ただ楽しかったというのではなく、本当にたくさんを経験できた2週間になりました。最初は、360度どこを見渡してもオシャレを感じる町並みの中、大声で大洲弁を話していた僕たちでしたが、最後のほうになるとパッと英語ができるようになり、自分の英語力の成長を感じることができました。



新谷中学校  
久保 敏朗さん

個人的な思い出としては、現地のマラソン大会に出場したのが心に残っています。日本代表として4位になり、惜しくもメダルは逃しましたが、ホストファミリーの女の子から手作りのメダルをもらった時はとても嬉しかったです。

この海外派遣をサポートして下さった人たちのためにも、今回学んだことを忘れずに生活していきたいです。また、今回出会った親友、ホストファミリーとの関わりも大切にしたいと思います。夢のような2週間を本当にありがとうございました。

今回の海外派遣は、私にとってとても貴重な体験となりました。最初、現地の生の英語に触れたとき、相手が話していることが聞き取れなかったり、自分の意思を伝えることができなかったりしました。その私が、日を追うごとに少しずつコミュニケーションを取ることができるようになりました。



長浜中学校  
坂本 真美さん

その理由の一つは、ホストファミリーがとてもフレンドリーで、家族の一員となったように思えるぐらい心を開いてくれたことです。

もう一つの理由は、現地の学校での授業です。バディの生徒とゲームや散歩をしながら楽しく英語を学んだり、小学生と一緒に授業やスポーツをしたりすることで、心の交流を深めることができたからです。オーストラリアの人と文化が私を積極的にしてくれました。

私の目標は、海外で通用する英語力を身に付けることです。今回参加させていただいたことに感謝し、これからの生活に生かしていきたいと思えます。

私は、海外派遣事業でオーストラリアに行って、さまざまなことを学び、経験することができました。

私にとって最も良い経験となったのが、本場の英語を耳にし、実際に会話したことです。日本では、学校の授業など限られた場所でしか英語を使う機会がありません。しかし、現地に行くとなんて英語で、自分の英語力を試すにはもってこいでした。結果的には、自分の英語力の未熟さを痛感させられましたが、それを良いきっかけにして、今まで以上に英語を勉強しようと思うことができました。

ほかにも、日本との類似点や相違点など、異文化を知ることができました。教科書ではなく、実際に見て体験することで、より大きな感動や理解を得ることができました。

私の将来の夢は、「留学」です。今回の海外派遣事業は、その夢に向けての大きな一歩となりました。この事業に参加できたことに感謝し、絶対に夢をかなえます。



肱東中学校  
原田 恵理香さん

私は今回、海外派遣事業に参加して、とても貴重な体験をすることができました。初めての海外、オーストラリアでの生活は驚きと感動でいっぱいでした。

優しい笑顔で温かく受け入れてくれたホストファミリーのおかげで、とても楽しい2週間でした。数日間はイタリアと中国の人が一緒にホームステイしていましたが、私にもフレンドリーに接してくれ、英語が未熟な私は身振り手振りで知っている単語を使い、一生懸命コミュニケーションを取りました。

休日は、ホストファミリーの友達と一緒に船で釣りに行ったり、庭でバーベキューをしたり、ショッピングに出掛けたり、さまざまな経験を通して、オーストラリアの文化や習慣を実感することができました。そして、現地の学校で仲良くなったバディや先生との楽しい授業は最高の思い出です。このような機会を与えて下さった大洲市教育委員会、同行していただいた先生、支えていただいた全ての人に感謝します。



大洲東中学校  
都築隆太郎さん

今年度、縁があり団長として参加させていただきました。派遣地のケアンズは、人口約20万人で環境と治安のよいところでした。お世話になった家庭のみなさんも気さくな人ばかりで、生徒から「楽しかった」という言葉が毎日聞こえてきました。学ばせていただいた州立ウォーリースクールは、閑静な郊外に位置し広大な敷地を有する小学校です。2～3の教室がつながった平屋建ての建物がゆとりのある配置で散在し、伸び伸びと生活できるつくりです。また、生徒は多民族で構成されていて、通常の学習のほかに自然に人権教育ができる環境にありました。

引率教員は授業を見ることはできませんでしたが、教室から聞こえてくる生徒の声や表情から、日々充実している様子がかげえました。また、派遣団を受け入れるため、先生や生徒のみなさんが用意周到に準備をされており、安心して任せることができました。関わっていただいた先生は、生徒の特性や個性をいち早く理解し、その生徒の長所を引き出し、それを伸ばそうと指導を工夫しておられます。おかげで生徒たちは日に日に表情が明るくなり、英語を話すこと、間違ふことへの抵抗が少なくなってきました。

2週間の海外生活で身に付けたり感じたりしたことは、たくさんあるでしょう。しかし何より大切なのは、この経験を通して生徒が大洲の良さを再認識してくれたことです。12人の生徒は、この経験をもとに大洲人であることを誇りに思い、リーダーとして成長してくれると確信しています。このようなすばらしい経験を支援して下さった樹山教育振興会、大洲市、教育委員会に心から感謝します。また、CLC語学学校、ウォーリースクールみなさんにも心から感謝の意を表します。



団長  
大洲南中学校  
校長 松井 康之 やすゆき



引率  
新谷中学校  
教諭 篠原 壮太郎 そうたろう

「自分に引率教諭が務まるかな」これが今回の派遣事業の引率を受けたときの正直な気持ちでした。しかし、初めて12人の生徒と対面したとき、このような不安な気持ちは吹き飛び、この生徒たちと一緒に大丈夫だと確信することができました。そして、期待と不安を抱きながらオーストラリアへと旅立ち、15日間生活をするなかで感じたことが二つあります。

一つは、コミュニケーションを図ろうとする態度の大切さです。オーストラリア滞在初日、誰もが自分たちの英語力の未熟さを痛感し、今後の生活に対する不安を感じました。しかし、生徒たちは何とか相手の気持を理解したい、自分の気持ちを伝えたいという思いを強く持ち、必死でコミュニケーションを図ろうと工夫しました。そのような姿を見ていると、コミュニケーションを図るうえで必要なことは、共通の言語ではなく、相手のことを理解したい、自分のことを伝えたいという思いの強さなのではないかと強く感じました。

もう一つは、異文化に触れることの大切さです。公共交通機関を利用する際のマナーの違い、授業時間や教室環境など学校生活の違い、食に対する捉え方の違いなど、日本での生活とは異なる体験をすることができました。その中で、生徒たちは「日本とはここが違うね。日本だったらこうだね」という会話を自然にしていました。このような体験を積むことで、日本の良さについてもあらためて考えることができました。

「もう1週間オーストラリアに滞在したかった」オーストラリアを旅立つ日に、この言葉を生徒たちから聞くことができ、とてもうれしかったです。終わりにりましたが、このような貴重な機会を与您いただき本当にありがとうございました。



今回の海外派遣に参加したみなさんの感想文を読むと、出発前にそれぞれ抱えていた不安は、帰ってきてから大きく変化していることが分かります。恐らくほとんどの派遣生が初めての海外生活で、日本とは異なる環境のなか、感じたこと、考えたことが、成長した自分自身を知ることになったと思います。

この体験を通して、みなさんの将来の夢が世界へ大きく飛躍することを願っています。